

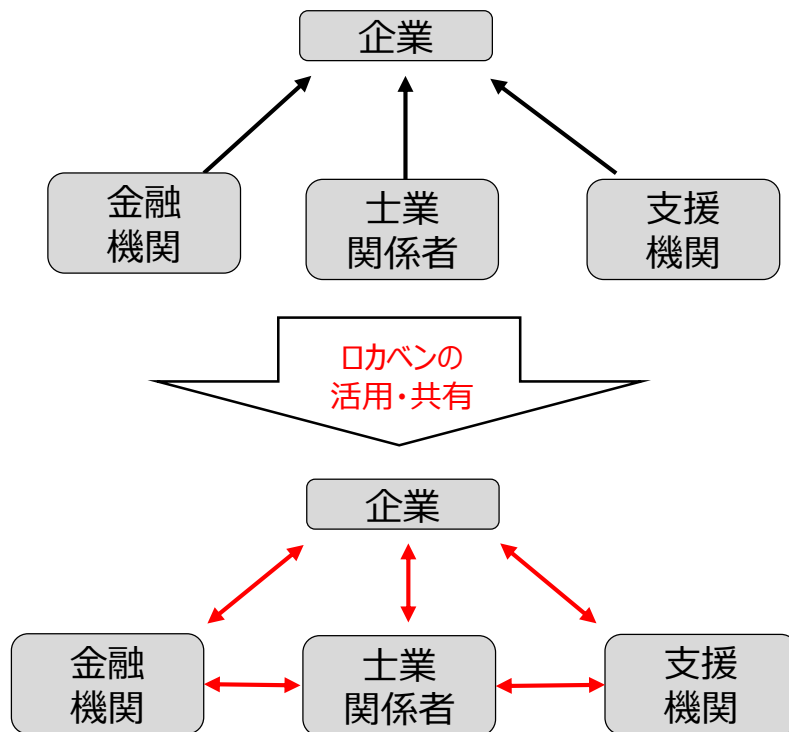
第 9 回 ローカルベンチマーク活用戦略会議 事務局説明資料

平成31年2月5日
経済産業省
経済産業政策局
産業資金課

対話の「共通言語」としてのローカルベンチマーク

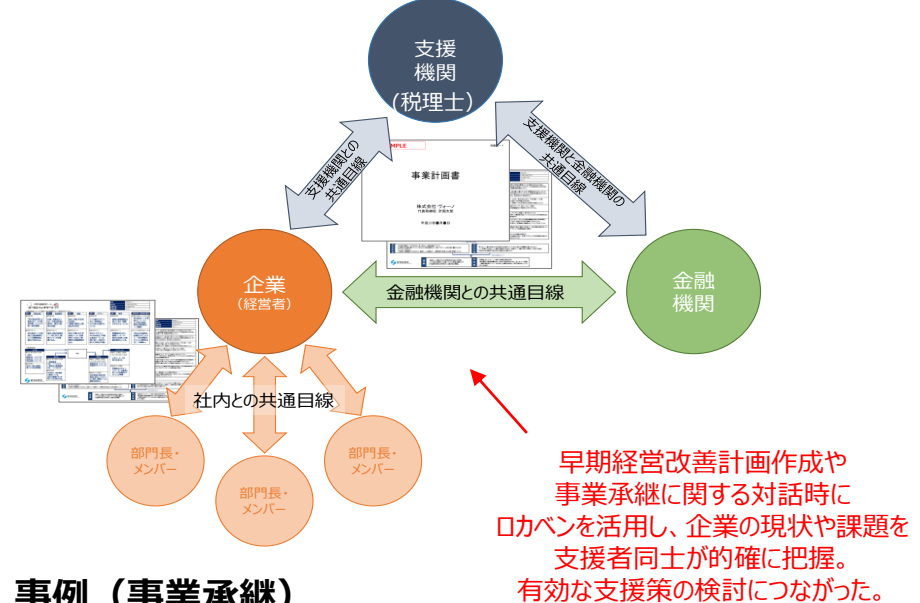
- ローカルベンチマークは、企業と支援者、支援者同士が、同じ目線・枠組みで対話を行う「共通言語」として機能。

対話の「共通言語」として



企業と支援者、支援者同士が、
同じ目線・枠組みで対話を行うことが可能
→有効な支援、支援機関の連携

事例（早期経営改善計画作成）



事例（事業承継）



ローカルベンチマークの普及拡大に向けた更なる取組の必要性

現状

企業



関係機関（金融機関、支援機関、土業）

ロカベンを活用した支援体制の構築は進みつつある。

中小企業、地域金融施策

～新しい経済政策パッケージ～（平成29年12月8日閣議決定）

第3章 1. 中小企業・小規模事業者等の生産性革命

中小企業・小規模事業者の投資促進と賃上げの環境の整備

生産性向上に必要なIT・クラウド導入を協力に支援。ローカルベンチマーク等の成果も活用しつつ、関係機関も巻き込み取組を促進

事業承継の集中支援

2025年までに70歳を超える経営者は約245万人、うち約半数が後継者未定
今後10年間程度を事業承継の集中実施期間として取組を強化

中小企業等を支援する機関の機能強化

支援機関の能力向上や連携強化。
金融機関が事業性評価融資や生産性向上に向けた経営支援に十分に取り組むよう、金融仲介機能の発揮を促す。

生産性向上、事業承継等の企業の喫緊の課題に対応するため、関係機関が今まで以上に有効な支援を行う必要

関係機関による取組の方向性

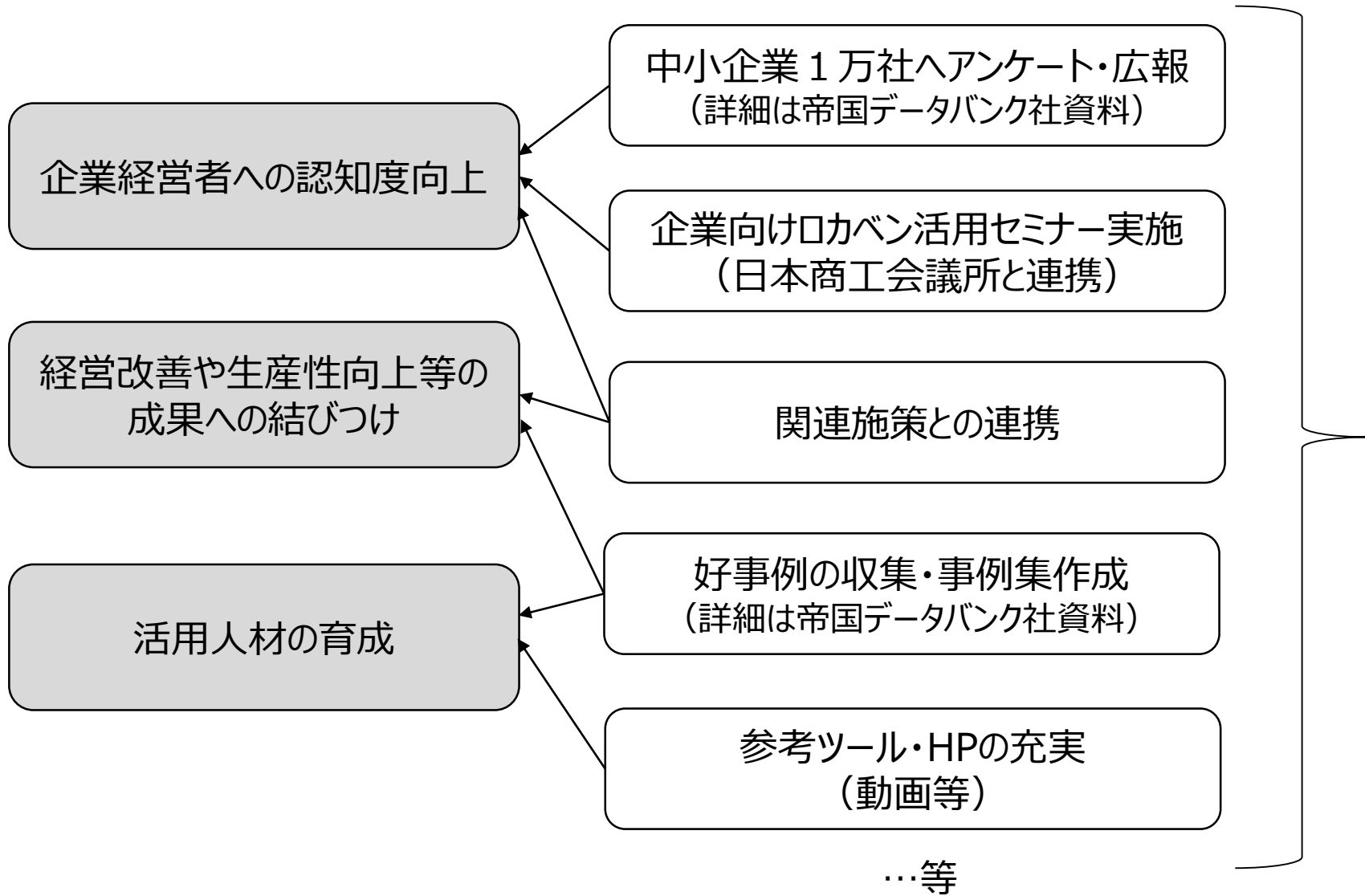
- 金融機関、支援機関、土業関係、有識者等の各関係機関においては、成果に結びついたローカルベンチマーク活用事例の収集、分析を行うとともに、成果に結びつけるノウハウ等の情報を横展開する。
- 各関係機関がローカルベンチマークを核として連携し、中小企業等の支援体制を構築する。
- 国は、関係機関の取組を後押しするため、各種施策へのローカルベンチマークの組み込み等を更に進める。

ローカルベンチマーク活用の更なる拡大につなげる。

今年度の取り組み

＜課題＞

<今年度の取り組み（例）>



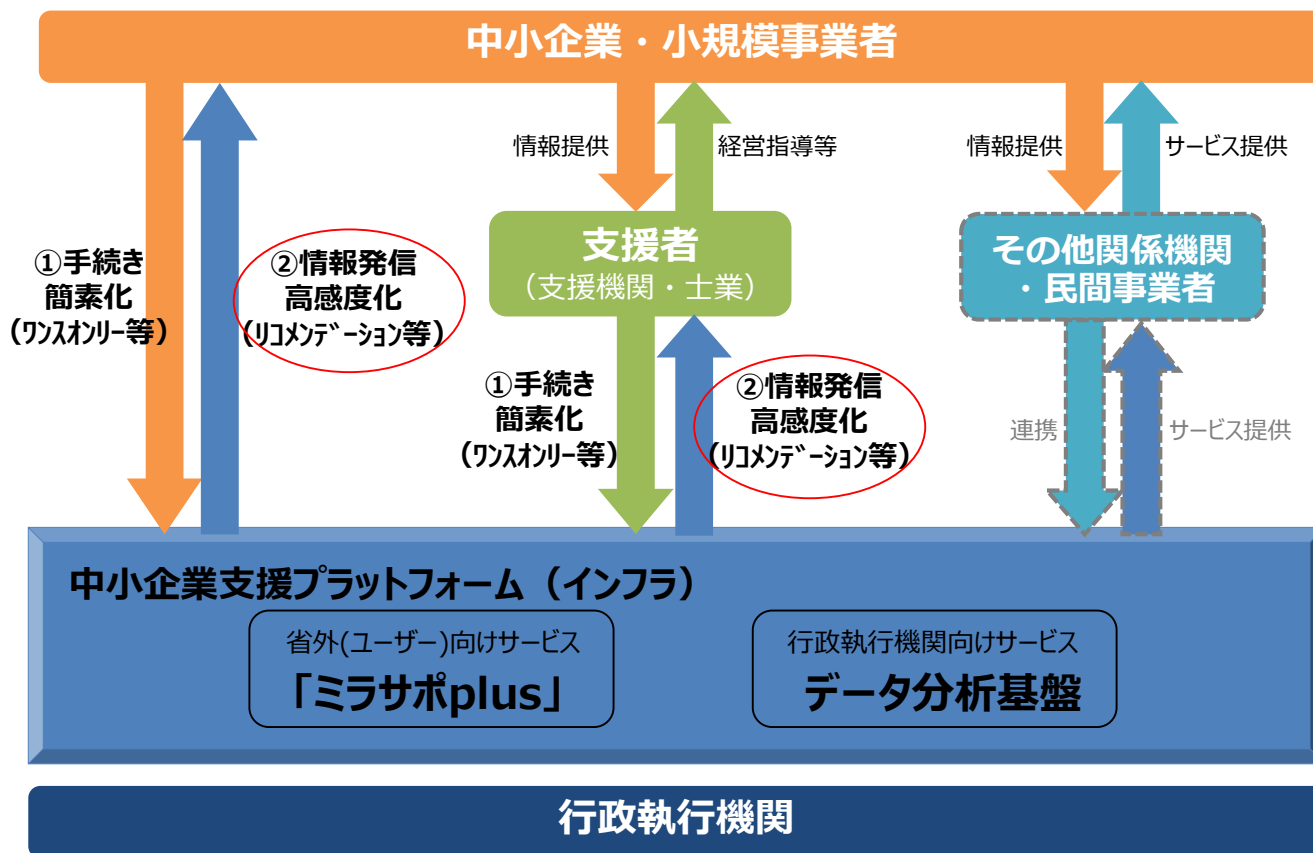
活用行動計画の作成

ローカルベンチマーク活用戦略会議の開催

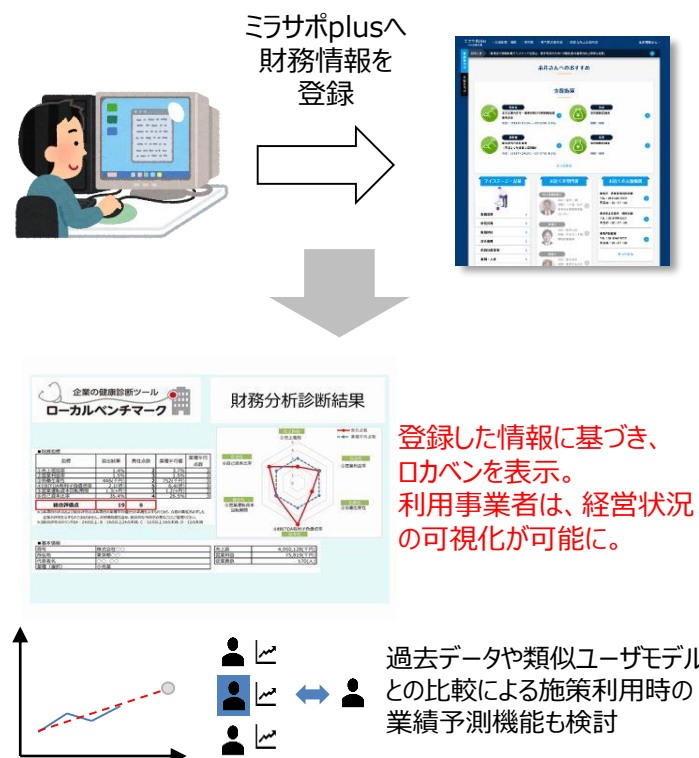
中小企業支援プラットフォームとの連携（今後、詳細検討）

- 中企庁では、ワンストップで中小企業サービスを提供できるプラットフォーム「**中小企業支援プラットフォーム**」を構築し、データに基づくより効果的な中小企業行政を目指している。
- PF上で登録された情報に基づき、**web上でロカベンが作成・表示**され、利用事業者が経営診断を行うことが可能な機能（経営診断リコメンデーション）の実装を検討中。

▽中小企業支援プラットフォーム



▽経営診断リコメンデーション



(注) PFは、19年度に開発し20年に公表予定。

広報面での連携（経営者保証ガイドライン、経営デザインシート等）

- 経営者保証ガイドラインに関するHPで、活用に関わる制度としてロカベンを紹介。また、内閣府知財事務局の経営デザインシートのHPでもロカベンを紹介。

「経営者保証に関する
ガイドライン」を、
ご存知ですか

Q7 ガイドラインを活用する際に役立つ国の支援や制度などがありますか？

A 「早期経営改善計画策定支援事業」や「ローカルベンチマーク」などが活用いただけます。「早期経営改善計画策定支援事業」は、経営改善に取り組む際に、専門家の支援のもとで資金繰りや採算管理等の資料作成を行う費用を国が一部負担する事業です。また、「ローカルベンチマーク」は、自社の経営を自身で定量・定性的に把握いただき、金融機関等との対話にご活用いただくためのツールです。いずれもガイドラインをご活用する際に役立つ支援や制度となりますので、積極的にご活用ください。

▽早期経営改善計画策定支援事業についてはこちら

認定支援機関による経営改善計画策定支援事業（中小企業庁HP）

※早期経営改善計画策定支援事業についてはページ下部をご参照ください

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/kakushin/kaizen/?index.htm>

▽ローカルベンチマークについてはこちら（経済産業省HP）

※下記バナーをクリック



首相官邸 Prime Minister of Japan and His Cabinet

政策会議

トップページへ

トップ > 会議等一覧 > 知的財産戦略本部 > 経営をデザインする

経営をデザインする (知財のビジネス価値評価)

社会・経済環境が、安定的なモノの供給が市場を牽引する20世紀型から、体験や共感を求めるユーザの多様な価値観が市場を牽引する21世紀型へと変化する中、経営の牽引力の源泉となる知財が果たす役割は増大しています。企業がユーザの多様な価値観に訴求するためには、価値創造のメカニズムを機動的・継続的にデザインしてイノベーションを創出すること、そのために知財が価値創造のメカニズムにおいて果たす役割を的確に評価することが期待されます。

本ページでは、知財が企業の価値創造メカニズムにおいて果たす役割を的確に評価して経営をデザインするためのツール（経営デザインシート）やその活用事例等を紹介します。

■説明会・講演会等イベント情報

・[経営デザインシートの説明会・講演会情報一覧\(PDF\)](#)

■経営デザインシート

(中略)

■参考リンク

・[ローカルベンチマーク\(経済産業省\)](#)

ローカルベンチマークは、財務情報と非財務情報の両面から企業の経営状態の把握、いわゆる「健康診断」を行うツールです。企業の経営状態を把握することで経営状態の変化に早めに気づき、早期の対話や支援につなげていくものです。

・[知的資産WEEK](#)

知的資産に着目し価値を創造する経営である「知的資産経営」の実践に向けたイベント、「知的資産経営WEEK2018」(経済産業省後援)が開催されます。

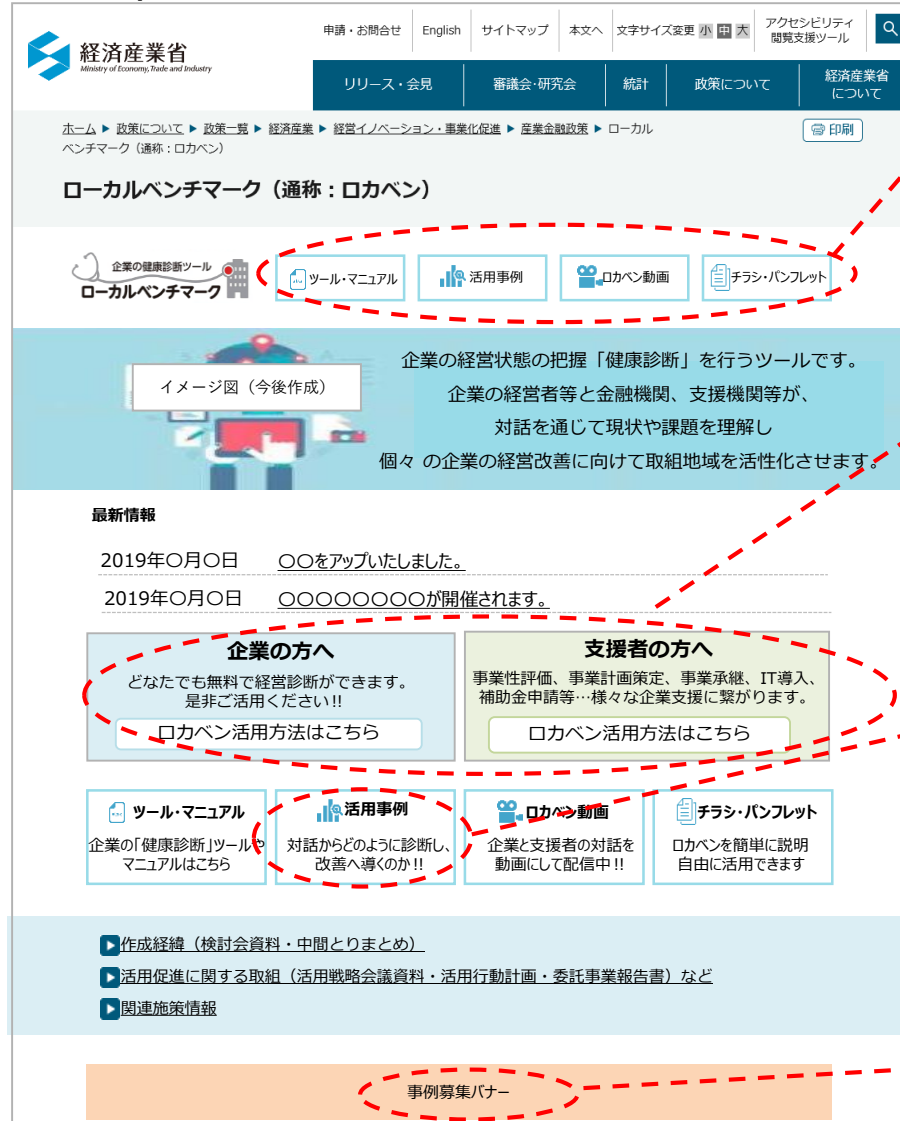
HPのリニューアル（来年度初にリリース予定）

- コンテンツを整理し、ユーザーが見たい情報にすぐ辿り着け、理解しやすい内容に再構成。

現状

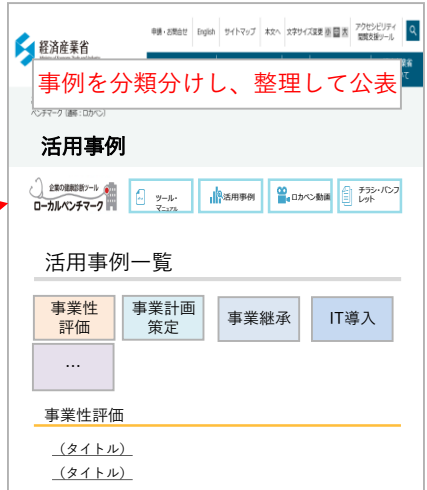


改正案



利用者が多いコンテンツはページのどこからでも閲覧可能に。

企業と支援者に分けてメッセージを整理。



事例募集バナーを設定予定。ぜひ、ご活用ください。

動画の公表

● 前回活用戦略会議以降のご意見も踏まえ、18年11月にロカベン活用動画をHP上で公表。

動画の公表（18年11月）



【構成】

- 1. 導入編

再生回数：約1,900回
(19年1月末時点・以下同)
- 2. 現状把握編（沿革、経営理念、経営意欲、後継者等）

約900回
- 3. 現状把握編（競合他社、取引先企業、研究開発等）

約600回
- 4. 現状把握編（従業員、取引金融機関、組織体制、事業計画等）

約500回
- 5. 業務フローの把握編（業務フロー）

約500回
- 6. 業務フローの把握編（商流把握）

約300回
- 7. 業務フローの把握編（顧客提供価値）

約300回
- 8. 業務フローの把握編（強み弱み 販売力・技術力等）

約300回
- 9. 課題解決編（現状認識～将来目標）

約300回
- 10. 課題解決編（課題～対応策）

約400回

各団体等での普及・活用（予定）状況

全国銀行協会	全銀協ウェブサイトの会員専用ページにローカルベンチマークHPのリンクを掲載し、本動画が公表された旨周知
全国商工会連合会	全国連ホームページで紹介済
ツトム経営研究所	SNS、研究会、セミナー等で紹介
生産性協議会	サービス産業生産性協議会のメルマガ（登録約7,000人）で案内
日本税理士会連合会	来年1～2月頃に行う、日本税理士会連合会中小企業対策部の会議にて動画を紹介し、部員に対して適宜活用を求める予定
日本動産鑑定	中小企業基盤整備機構・中小企業大学校等の研修で、ローカルベンチマークの実践事例とともに、動画を紹介
日本弁理士会	全会員（約11,000人）へメール配信にて周知
金融機関・団体	各地域担当役員に展開し共有化。営業店臨店時に、営業店の職員に対して必要に応じて情報提供
金融機関・団体	行内で構築している自宅学習システム(PC・タブレット・スマホから閲覧可能)等を活用し、紹介していく方針

（注）委員一覧名簿順

関連動画

経産省HPで、日本動産鑑定森委員のセミナー動画を紹介。
HPで紹介可能なロカベン活用動画・勉強会動画・研修動画等を募集中。

外部リンク・参考資料一覧

■日本動産鑑定 会長 森 俊彦様 ご講演
・ 虎ノ門セミナー「中小企業経営者の金融機関との付き合い方と眼力強化」動画及び資料の掲載について

本日ご意見頂きたい事項

- ローカルベンチマークの普及・促進に向けた活動を進めていくにあたり、本日は下記問いに対して委員の皆様からご意見をいただきたい。

問①

支援機関の連携強化、より有効な企業支援・金融仲介機能の発揮が重要となっているなか、共通言語・対話の手段としてロカベンが果たすべき役割、課題および対応策についてどのように考えられるか、お聞かせください。

問②

企業向けアンケート結果における認知状況・認知経路・活用しない理由等も踏まえ、企業経営者の認知度向上・活用促進のため、各委員の皆様（の団体）における現在および今後の取組についてお聞かせください。

問③

企業向けアンケートによると、ロカベンの非財務項目部分の活用がまだ進んでいないという結果になっております。各委員の皆様（の団体）における非財務項目部分の対話状況、課題と考えられる対応策について、ご意見頂ければと思います。